


豊岡市文化財保存活用地域計画（案）の概要

この概要版は、『豊岡市文化財保存活用地域計画（案）』のポイントを抽出して作成しています。計画での記載箇所を  に示していますので、詳しい内容を確認したい方はご参照ください。

令和8年6月
豊岡市 産業経済部 文化・スポーツ振興課 文化財室

『豊岡市文化財保存活用地域計画』とは 第1章

豊岡市の豊かな歴史・文化・自然を守り、活かし、より一層魅力的なまちへと磨き上げる計画

豊岡市には、コウノトリ、神鍋山や玄武洞などの地質資源、但馬国分寺跡や山名氏城跡、出石城下町や城崎温泉街、麦わら細工や四季折々の祭礼・行事など、豊かな歴史・文化・自然があります。それらは、地域の魅力をつくり、人と人の絆を育み、日々の豊かな暮らしを支えるかけがえのない財産です。

しかし、人口減少・少子高齢化による担い手不足や異常気象に伴う災害の危険度の高まりなどにより、継承が危ぶまれるものが増加しています。

市民及び団体、専門家、行政が連携し、豊岡市の豊かな歴史・文化・自然を保存・活用し、より一層魅力的なまちへと磨き上げることを目的として、『豊岡市文化財保存活用地域計画』を作成します。

■ 計画の対象

 2～3 ページ、(概要:第3章)

「豊岡の宝もの」

- 豊岡市内のすべての歴史・文化・自然の資源をさします。
(例) 古い建物や寺社・お堂、村や地域で執り行われる祭りや行事、美しい自然風景をつくる山川、田畑、巨木・古木、昔から伝わる食べ物や昔話・伝説、仏像や古文書、遺跡など
- これまで約 14,500 件の「豊岡の宝もの」を把握しています。このうち、442 件が文化財に指定等されています。
- 「豊岡の宝もの」と周辺環境が一体となったものを「歴史文化」と呼びます。

■ 計画の期間

 5 ページ

令和9年度(2027年度) ～ 令和19年度(2037年度)

※令和9年(2027)3月に計画期間満了を迎える『豊岡市歴史文化基本構想』の理念を受け継いで作成する計画です。
※令和8年度(2026年度)に文化財保護法に基づく計画認定を申請する予定です。

豊岡市の歴史文化 ～「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語～ 第4章

- 豊岡市の歴史文化の特性は、多様な「豊岡の宝もの」を、自然を介したつながりや、歴史的・地域的関連性をもとに整理した7つの物語として捉えることができます。

「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語

「豊岡の宝もの」の自然を介したまもりや歴史的・地域的な関係性

物語	物語を構成する「豊岡の宝もの」の例	「豊岡の宝もの」		
		歴史資源	文化資源	自然資源
物語1 アメノヒボコの伝承 『古事記』や『日本書紀』などに神話を伝えるアメノヒボコは但馬開拓の祖神とされる。市内には、アメノヒボコやその子孫を祀る神社も多く、幟まわしや菓子祭りなどのゆかりの祭りも受け継がれる。	・出石神社本殿 ・御出石神社本殿 ・日出神社本殿 ・中嶋神社本殿 ・森尾古墳出土品 ・袴狭遺跡 ・入佐山3号墳	・幟まわし ・御出石神社・桐野神社の秋祭り ・中嶋神社菓子祭り(橋東祭)	・瀬戸の岩戸	
物語2 日本海の恵みと人々 日本海は、沿岸の独特な景観や豊富な魚介類などのさまざまな恵みをもたらした。かつて北前船の寄港地として栄えた竹野には、強い風雪に耐える焼杉板を利用した町並みが受け継がれる。	・ヨゴレババ古墳群 ・飾千石船 ・鷹野神社海上信仰資料 ・竹野川湊館 ・竹野駅駅舎	・竹野集落 ・宇日の舟屋景観 ・製塩 ・津居山かに(かに料理)	・宇日流紋岩の流理(流紋) ・宇日の舟屋景観 ・波食甕穴群 ・竹野浜 ・畑上の大トチノキ	
物語3 城崎温泉 近代以降、多くの文人墨客が訪れた城崎には、外湯を中心に山々と大淵川、木造旅館などが調和した温泉街の佇まいがある。そして、祭りや伝統工芸などは、温泉街をより一層魅力的にしている。	・温泉寺本堂 ・十一面観音立像 ・四所神社本殿、拝殿 ・王橋、愛宕橋、柳湯橋、桃島橋、辨天橋	・温泉街の町並み ・温泉起源伝承 ・城崎だんじり祭り ・麦わら細工	・温泉(泉源) ・温泉寺参道沿いの古木群 ・大淵川	
物語4 円山川と暮らし 円山川は、コウノトリなどの豊かな自然を育み、人々の暮らしや文化、経済を支えた。一方、度々大水害を引き起こしたため、沿川には玄武岩の石積みや川の平穏を祈る祭りなどが受け継がれる。	・久久比神社本殿 ・小田井神社 ・二見谷古墳群 ・羽柴秀長鮎漁免状	・豊岡紀柳細工 ・柳まつり ・水無月神社の川濯祭り	・円山川 ・コウノトリ ・玄武洞 ・円山川河畔林	
物語5 但馬第一のまち 古代は但馬国府、中世は山名氏の居城、近世は出石藩・豊岡藩の城下が位置し、各時代を通じて但馬の政治・文化の中心地だった。出石・豊岡の城下町は、災害を経て、それぞれに特色ある町並みを伝える。	・但馬国府跡(祢布ヶ森遺跡) ・但馬国分寺跡 ・山名氏城跡 ・此間山城跡、有子山城跡 ・築ヶ前城跡 ・龜ヶ城跡 ・出石城跡 ・豊岡陣屋跡	・妙経寺 ・円通寺 ・出石城下町 ・豊岡市街地(豊岡震災復興建築群) ・出石皿そば ・大名行列槍振り ・出石皿そば	・有子山 ・三開山	
物語6 神鍋高原をめぐる文化 神鍋山の周りには、7つの火山があり、滝などの美しい地形や高原野菜を育む肥沃な土壌をつくり出した。高原にはスキー場やキャンプ場が整備され、四季を通じて多くの来訪者がある。	・岩倉古墳群 ・隆国寺の石垣 ・旧大岡寺庭園	・そうだる節とヤチャ踊 ・神鍋のスキー ・但馬牛 ・ニジマス養殖 ・ワサビ栽培 ・神鍋山の山焼き ・そうだる節とヤチャ踊	・神鍋山・神鍋高原 ・神鍋溶岩流 ・アベサシヨウウオ ・おまき桜	
物語7 京街道を行き交う文物 豊岡・出石から但東を経て京都を結ぶ京街道は、江戸時代以降、参勤交代の行列や庶民が行き交い賑わった。人々の往来は、沿道地域を中心に本市の文化に大きな影響を及ぼした。	・栗尾古墳 ・木造薬師如来坐像 ・久畑園所跡 ・京街道	・日吉太神楽 ・さき断子(太古踊) ・太刀振り ・大生部兵主神社春の大祭 ・但馬ちりめん ・農村歌舞伎舞台 ・但馬ちりめん	・安国寺のドウダンツツジ ・一宮神社のケヤキの森 ・郷路岳 ・東里ヶ岳	

「豊岡の宝もの」の保存・活用

- 将来像を「ふるさとを学び、「豊岡の宝もの」を未来へつなぐまち」とします。
- 将来像の実現に向けて、「ほりおこす」、「知り・学ぶ」、「守る」、「伝え・活かす」の4つの方向性に基づく取組を相互に連動させながら展開します。
- 合計27方針（下図）を掲げ、そのもとに合計37事業を設定して取組を推進します。

- 方針1-1 建造物や美術工芸品の把握調査の実施
- 方針1-2 祭り・行事や民俗芸能の定期的な現況確認調査の実施
- 方針1-3 埋蔵文化財の発掘調査等の継続実施
- 方針1-4 但馬国分寺跡の調査・研究の実施
- 方針1-5 行政区や地域コミュニティ組織による歴史文化の調査・研究の支援
- 方針1-6 「豊岡の宝ものデータベース」による「豊岡の宝もの」情報の管理



【方針1-1の事業】美術工芸品の調査・記録作成
【方針1-5の事業】行政区や地域コミュニティ組織による歴史文化の調査・研究の支援

ほりおこす

- 方針2-1 指定等文化財に関する情報発信の充実
- 方針2-2 「豊岡の宝もの」を知る機会の提供
- 方針2-3 ふるさと教育の充実
- 方針2-4 「とよおか市民学芸員」の継続的な養成
- 方針2-5 多様な担い手・支援者の確保・育成
- 方針2-6 子育て世代の歴史文化に対する興味・関心の向上



【方針2-2の事業】市民向け講座の実施
【方針2-3の事業】小・中・義務教育学校向けの出前授業の実施

知り・学ぶ



- 方針4-1 「豊岡の宝もの」をつないだ魅力的な観光情報の発信
- 方針4-2 案内板等の更新・撤去
- 方針4-3 現地解説へのICTの活用
- 方針4-4 市立歴史博物館の機能強化の検討
- 方針4-5 但馬国分寺跡の整備・活用
- 方針4-6 「山陰海岸ジオパーク」の活用事業との連携
- 方針4-7 「豊岡の宝もの」の地域づくりへの活用支援



【方針4-4の事業】市立歴史博物館の機能強化の検討
【方針4-5の事業】但馬国分寺跡の整備・活用

伝え・活かす

- 方針3-1 指定等文化財の確実な保存・継承
- 方針3-2 文化財指定等の推進
- 方針3-3 国指定史跡の保存
- 方針3-4 本市の歴史文化の特性を分かりやすく示す町並みの保全
- 方針3-5 「豊岡の宝もの」の保存・継承のための各種補助金の活用
- 方針3-6 文化財指定等に至らない「豊岡の宝もの」の保存・継承のための制度の創設・運用
- 方針3-7 祭り・行事や民俗芸能の継承支援
- 方針3-8 地域コミュニティ組織による「豊岡の宝もの」の保存・継承の支援



【方針3-4の事業】出石城下町の保全
【方針3-7の事業】祭り・行事や民俗芸能の継承支援

守る

「豊岡の宝もの」の防災・防犯

- 次の5方針のもとに5事業を設定して、「豊岡の宝もの」の防災・防犯に取組を推進します。

- 防災・防犯) 方針1 「豊岡の宝もの」の防災・防犯に関する意識啓発
- 防災・防犯) 方針2 防火設備の整備・点検
- 防災・防犯) 方針3 消火訓練の実施
- 防災・防犯) 方針4 出石伝統的建造物群保存地区の防災力の向上
- 防災・防犯) 方針5 災害・被害発生時の「豊岡の宝もの」に係るタイムラインの作成



「文化財防火デー」の消火訓練

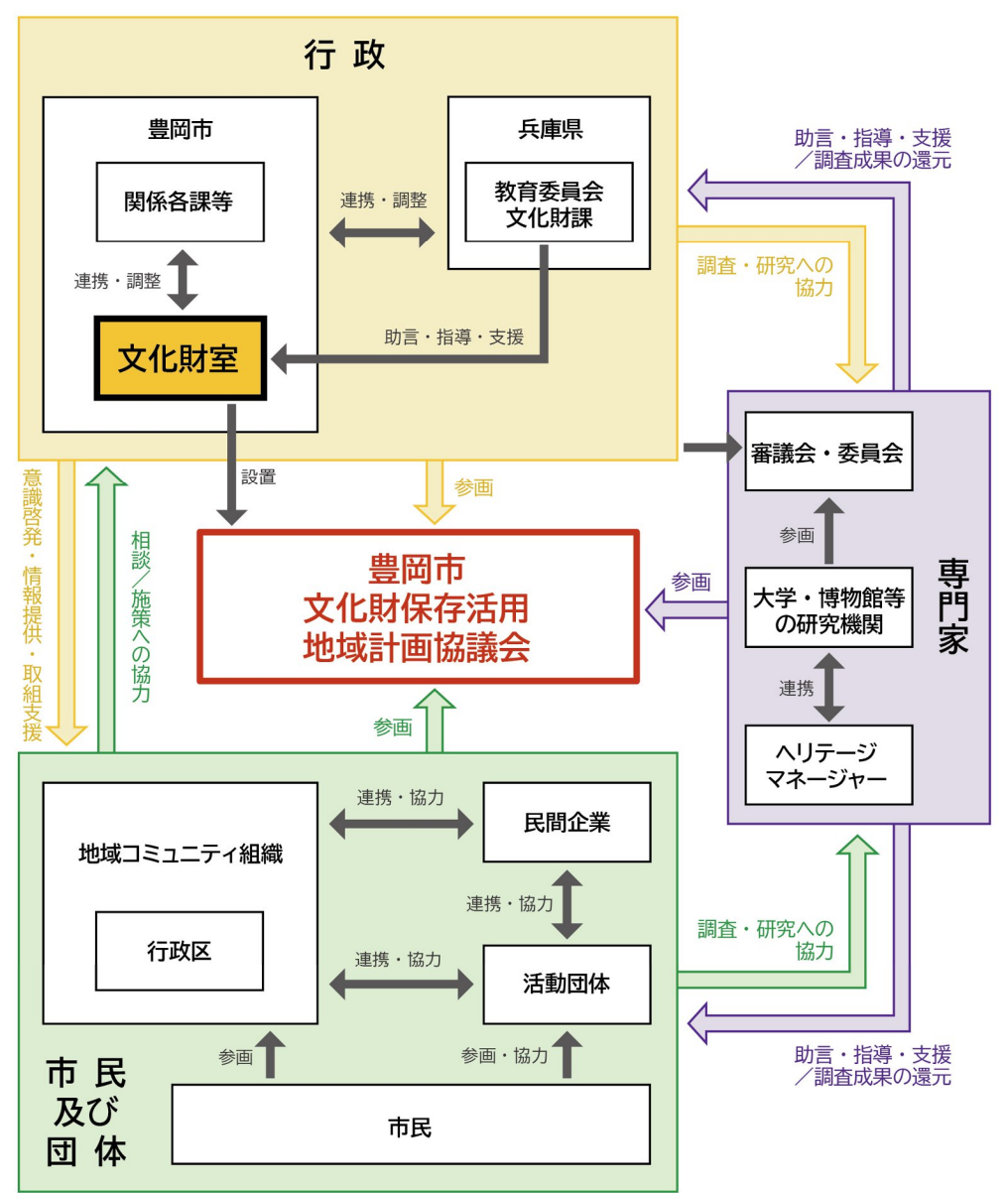
- 万が一、災害・被害等が発生した際、適切かつ迅速に対応できるよう、豊岡市担当部局(文化財室)は、市民(所有者・管理者や行政区等)、豊岡市消防本部、豊岡警察署等との密な連絡体制を築きます。また、応急対策や復旧・復興・復元等を的確に実施するため、各分野の専門家との連携・協力体制を構築します。
- 災害・被害への対応が完了した後、豊岡市担当部局(文化財室)は「豊岡の宝もの」の防災・防犯体制を点検し、必要に応じて改善します。また、防災・減災の知恵や技術等の情報を整理して、次世代に伝えます。

推進体制と進行管理

- 行政、市民及び団体、専門家の各主体が、それぞれの役割を認識し、右図のように相互に連携して、地域総がかりで「豊岡の宝もの」の保存・活用に取り組めます。
- 主体間の連携・調整を図る場として、「豊岡市文化財保存活用地域計画協議会」を設置し、本計画に基づく取組の効果を検証します。
- その他、豊岡市の出身者・来訪者等の市外の人々、旅行者・観光業者などの市外の民間企業、近隣の市町や関係する市町村等とも積極的な連携を図ります。



豊岡市文化財保存活用地域計画協議会(計画作成に向けた協議の様子)



計画の推進体制(主体間の連携イメージ)